

なの花薬局 presents 第7回なの花薬局カップ全道タグラグビー大会2025

実施概要書

令和7年

北海道ラグビーフットボール協会

普及育成委員会

なの花薬局

目次

大会実施要項 P. 2～3

大会規則 P. 4～6

大会競技規則 P. 7～8

大会規則・競技規則補足 P. 9～10

大会名称 なの花薬局 presents 第7回なの花薬局カップ全道タグラグビー大会2025

この大会は、ラグビーワールドカップ日本大会でベスト8という歴史的快挙を成し遂げた日本代表によるラグビーファンの拡大を気運とし、全道各地域でタグラグビー大会を開催することにより、ラグビーファミリーの拡大を目指すものです。

目的 全道各地の小学生から大人までが、ラグビーからコンタクト（接触）を除いたタグラグビーをプレーすることにより、ラグビースピリットを通じ、仲間と助け合うことを体験し、自ら考えて道を切り開くことを身につけ、スポーツの意義を実感することを目的とする。

主催 一般財団法人北海道ラグビーフットボール協会

協賛 株式会社メディカルシステムネットワーク（なの花薬局）

期間・会場

開催エリア (カッコ内は支部名)	開催日	開催場所（予定）
函館エリア (函館)	10/26(日)	北斗総合体育館
札幌・小樽エリア (札幌・小樽・胆振)	10/25(土)	野幌総合運動公園
空知エリア (旭川・空知・富良野)	11/1(土)	芦別市総合体育館
北見エリア (北見)	10/11(土)	網走スポーツ・トレーニングフィールド
十勝エリア (十勝・根釧)	10/5(日)	帯広の森球技場

競技規則 (公財) 日本ラグビーフットボール協会タグラグビー標準競技規則に基づく大会規則に準ずる。

競技方法 チャンピオンズリーグとエンジョイリーグの2リーグ制とする。ただし出場チーム数が少ない場合、エンジョイリーグについては各エリア（担当支部）の判断で省略できるものとする。基本的なリーグ構成については以下のとおり。

【チャンピオンズリーグ】 12チーム出場の場合

- ① 出場チームを抽選で3チームずつの4プールに分け、総当たり戦で1位～3位を決定。
- ② 各プール1位と2位のチームは決勝トーナメント戦へ進出。
- ③ 各プール3位のチームは順位戦へ進出。

【エンジョイリーグ】 8チーム出場の場合

- ① 出場チームを事前に4チームずつの2プールに分け、総当たり戦。
 - ② 勝敗による順位付けはないが、成績上位2チームの中からベストエンジョイ賞を授与。
- ※その他、各支部の判断で独自の方法による競技方法を定めることができる。

- 参加資格**
- (1) チャンピオンズリーグは小学生 4～6 年生(日本の学期制による)で編成したチームで、学年の編成内容は問わない。エンジョイリーグは小学1年生～大人以上で編成したチームとし、編成内容は問わない。また、個人の参加も可(ただし小学生以下は保護者同伴のこと)とし、その場合は事務局にてチーム編成する。
 - (2) 原則、単一校によって構成されたチームとするが、複数校の混成チーム、少年団単位のチームでの参加を認める。エンジョイリーグはあらゆる参加希望者を対象とし、希望する者が競技に参加できるよう各支部の独自の方法による参加資格を定めることができるものとする。
 - (3) 小学生を伴う参加チームは成人2名が必ず帯同コーチとして引率し、登録選手の保護者から参加の承諾を得ていること。また、大会要項その他主管団体の定める大会規則の遵守を誓約すること。
 - (4) 帯同コーチは当該チームを指導掌握し、責任を負う事のできる者であること。
ただし、予選大会において帯同コーチが複数のチームを兼任することは構わない。
 - (5) 帯同コーチは所属小学校長(複数であれば総て)の承認を受けていることが望ましい。
ただし、必ずしも小学校長の承認がなくても、帯同コーチの責任において参加可能とする。
 - (6) 参加登録費(保険料を含む)は主催者が負担する。

- 罰 則 大会要項、大会諸規約、競技規則について、違反などスポーツマンシップに反する行為があった場合は
厳重な処罰を行う。
- 安全対策 (1) 大会期間中の保険は、主催者でまとめて加入する。
(2) 試合中の傷害について、応急の医療処置は本部が施すが、事後処置はチーム及び保護者が
行うものとする。
(3) 負傷者のケアをするメディカルサポーターは主催者が任命し、自らの判断でレフリーの許可を得ず
に競技コート内に入ることを可能とする。
(4) 試合中の給水はハーフタイムのみとする。ただし、レフリーが認めた場合は、試合中でも
給水可能とし、蓋付容器に入れた水、スポーツドリンクでの水分補給とする。
(5) 会場までの移動については、すべてチームの自己責任とするので、安全運転を心がけること。
- 健康管理 (1) 試合中以外での病気・傷害については、チーム内で処理すること。
(2) 参加選手は必ず保険証またはそのコピーを持参すること。
(3) コート内での食事、缶入飲料水の持込みは禁止する。
(食事場所は別途案内する。ゴミは各自持帰ること)
- 肖像権 大会出場選手の肖像権は主催者にあるものとする。
※北海道ラグビーフットボール協会ウェブサイト内の掲出や、次年度以降の大会のポスター・プログラム
等に使用される可能性がある。
※北海道内のタグラグビー普及事業に係るポスター・プログラム等に使用される可能性がある。
- 表彰 【チャンピオンズリーグ】
(1) 優勝チーム、準優勝チーム、3位チームを表彰する。
(2) 決勝チームの中からナイスタグ賞を与える。
(3) その他、各支部大会責任者の判断にてチーム・個人賞を設けることができる。
【エンジョイリーグ】
(1) 原則、成績上位のチームから、ベストエンジョイ賞を表彰する(2チーム)。
(2) その他、各支部大会責任者の判断にてチーム・個人賞を設けることができる。
- その他 (1) 使用するタグセット、タグボールは主催者が、ビブスは各チームで用意する。
(2) 大会球はサントリーカップ公式試合球(BLK提供)の使用を推奨する(特に定めない)。
※小学1～3年生の試合では、スポンジボールを使うなどの配慮を可とする。
(3) チャンピオンズリーグの各チーム帯同コーチ1名は、他のチーム同士の試合のアシスタント
レフリーが務められること(初めての方の場合は事務局でサポートすること)。
(4) 大会実施及び運営にあっては、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大防止の観点から、(公
財)日本ラグビーフットボール協会からの通達等を注視し、開催時期の関係省庁、各地域の感染状況
を踏まえて逐次見直すこと。

1 グラウンド

グラウンドサイズは概ね横 30m × 縦 40m(ゴールラインからゴールライン)、インゴール(ゴールラインからデッドボールライン)は各 5mずつとする。

なお、競技場により、上記グラウンドサイズは主催者の判断で、増減することがある。

★なの花薬局カップ用の専用試合コート

ゴールライン	タッチライン	ゴールライン
5m	20m	5m
イン ゴ ー ル	ハ ー フ ウ エ イ ラ イ ン	イン ゴ ー ル
		30m

2 用具

- (1) 大会期間中に使用するタグセット、タグボールは主催者が、ビブスは各支部で用意したものを使用する。
- (2) ボールは 4 号球を使用し、空気圧は 0.5 ~ 0.6kg/c m²。
- (3) タグは日本協会規定サイズ(50mm × 375mm)。ベルトはマジックテープ式 (1105mm × 37mm)。

3 チーム

- (1) 競技グラウンド内にいる5名のプレーヤーと入替可能な2名以上5名以下のプレーヤーから成る。ただし、エンジョイリーグはこの限りではない。エンジョイリーグは、試合を成立させるため、事務局判断で選手補充をすることができるものとする。その際の勝敗については、その試合の都度、両チームとの話し合いによって決めておくこと。
コーチは各試合において、後半開始時まで登録選手を必ず全員出場させること。前後半がない試合は、あらかじめレフリー部門と協議のうえ、試合時間の半分を経過した時を中途に選手を入れ替えること(得点の有無を問わない)。
- (2) チャンピオンズリーグの試合開始時、試合に必要なプレーヤー及び帯同コーチが揃わない場合、相手チームの不戦勝とする。
- (3) 帯同コーチは成人2名とする(そのうち1名は、他のチーム同士の試合のアシスタントレフリーが務められること)。コーチは試合中に次のことができる。
 - 1 負傷者の救助等でレフリーの指示があった場合に競技グラウンド内に入ること。
 - 2 グラウンドサイドの主催者が指定する位置で、チームプレーヤーへの教育的かつ建設的助言を行うこと。ただし、プレーヤーの自主性を尊重すること。プレーヤーの「タグ」のコールが聞こえるように大きな声での助言は厳に慎むこと。
 - 3 グラウンドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの入れ替えに関する管理を行うこと。
 - 4 ハーフタイムに競技グラウンド内に入り、プレーヤーに給水を行うこと。
 - 5 グラウンドサイドの主催者が指定する位置でプレーヤーの健康、安全管理を行うこと。
- (4) 帯同コーチは大会期間中の選手、自チーム応援者の言動について一切の責任を負う。これができない場合、警告以上の処分が与えられる。レフリーコールについては厳に慎むこと。
- (5) レフリー、アシスタントレフリー、第3アシスタントレフリー、競技役員はチーム、帯同コーチ、観客の言動が悪質な妨害行為にあたりと判断した場合、警告以上の処分を科すことができる。

4 プレーヤーの服装

(1) プレーヤーの服装については以下のとおりとする。

①運動に適した服装(学校体操着など)とし、運動靴またはトレーニングシューズとする(上履きの場合、靴底が黒いものは不可)。外靴の場合、スパイクはプラスチック一体成型のものは認めるが、金属及び脱着式のものはずべて不可とする。

<規則に反しない例>



(2) プレーヤーは以下のものを着用することができる。

- 1 髪留め(ゴム製)
- 2 めがね(試合中に脱落しないよう、固定すること。万が一の接触に備えて、強化プラスチック製のものを用いることが望ましい)

(3) 以下の物については着用を認めない。

- 1 手袋(タグの色と紛らわしいため。また、着用の有無による利益不利益をなくすため)
- 2 ギブス等医療装具(着用しないとプレーできない場合は出場させるべきではないから)
- 3 その他、タグラグビーをプレーする上で必要ない物

5 選手の入替え

(1) 入替は以下の時に何度でも可。ただし、前後半がない試合は、試合時間の半分時点を目途にレフリーが試合を止めて、出場していないすべての選手を入れ替えるものとする。プレーの途中で入れ替えた場合は、その時点でのフリーパスで再開する(タグの回数は継続)。

- 1 ポイント(トライ)後
- 2 ハーフタイム開始時
- 3 負傷でゲームが中断した時

(2) チャンピオンズリーグの入替は帯同コーチが第3アシスタントレフリーに申し出、レフリーが承認して成立する。入れ替えが行われている間、試合は再開しない(時間は継続)。入れ替えを行うチームは速やかに実施できるよう準備する。

(3) 負傷により退場したプレーヤーがその試合に戻ることはできるが、出血している状態で戻ることはできない。

6 試合時間

(1) 試合時間は開催支部で定める。参加チーム数が少ない場合は、予選リーグ及び順位戦が前半5分ーハーフタイム1分ー後半5分、決勝トーナメントが前半7分ーハーフタイム1分ー後半7分とすることを推奨する。

(2) プレーヤーはハーフタイムには、サイドチェンジを行った後にチームから給水を行うことができる。ただし、自チームベンチに戻ることはできない。プレーヤーは後半開始時には競技再開ができる位置にいないといけない。レフリーは、チームの行為が遅延行為にあたりと判断した場合、相手側のフリーパスによる再開を行う。

7 レフリー

(1) レフリー1名 アシスタントレフリー2名(予選においてはタッチジャッジ2名)、第3アシスタントレフリーとする。

(2) レフリー及び第3アシスタントレフリーは主催者が指名する。アシスタントレフリー2名については、協会登録レフリーまたは全参加チームの帯同コーチの中から主催者が指名する。※レフリー及びアシスタントレフリー、第3アシスタントレフリーは主催者が指名する。ただし、予選ではアシスタントレフリー2名に代わり、全参加チームの帯同コーチの中からタッチジャッジ2名を指名することを推奨する。

(3) レフリーはグラウンド内で判定を行う。また、レフリーの服装はプレーヤーに準ずる。タッチジャッジはこの限りではない。

- (4) アシスタントレフリーはタッチライン沿いで以下を行う。
- 1 レフリーの判定の補佐。
 - 2 選手の入替の補佐。
 - 3 負傷者のための試合停止の要請。
 - 4 帯同コーチ・観客の悪質な妨害行為のレフリーへの報告。
- (5) 第3アシスタントレフリーはグラウンドサイド、ハーフウェイラインに位置し、以下を行う。
- 1 選手の入替の管理(全員出場の確認を含む) ※入替の管理責任は帯同コーチにあります。
 - 2 得点の確認
 - 3 チーム、帯同コーチ、観客の悪質な妨害行為に対する警告及びレフリーへ妨害行為を行ったチーム、帯同コーチ、観客を報告する。
- (6) レフリーはその試合における唯一の事実の判定者であり、レフリーに対して抗議することは認められない。
- (7) レフリーは以下の場合に試合を停止することができる。
- 1 プレーヤーが負傷し起きあがれない場合。マッチドクターからの要請による場合も同様とする。
 - 2 プレーヤー、帯同コーチ、観客に注意を与える場合。
 - 3 前後半戦がない試合で、試合時間の半分を経過しようとするとき。
レフリーが、以上の理由で試合を停止した場合、再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする(タグの回数は継続)。競技時間を停止する場合、レフリーは明確な方法で試合時間の管理者に伝達する。

8 試合時間の管理と試合の記録

- (1) 試合時間の管理及び試合の記録を行う者は主催者が任命する。
- (2) 試合時間を管理するものは、レフリーの合図により試合時間の進行を止めることができる。
- (3) 負傷者の対応により著しく時間をロスした場合、レフリーは自身の判断でロスタイム分の延長を行える。

9 試合終了(ノーサイド)

試合終了(ノーサイド)はプレーの切れ目ではなく時間によって区切られる。レフリーが試合を停止した場合、その試合はレフリーのノーサイドの合図をもって終了とする。

10 試合の勝敗について

ノーサイドの時点で得点数の多いチームを勝者とする。

11 大会における予選リーグ戦、決勝トーナメント戦(参考)

詳細は各支部で決めることとし、標準的な決まりは以下のとおりとする。エンジョイリーグは各支部の裁量による。

【チャンピオンズリーグ】

- (1) 予選リーグ戦(例)
 - 1 4ブロック、各3チームによる総当り戦方式とする。
 - 2 試合の結果に応じて、チームに勝ち点を与える。勝ち点は、勝ち 3 点、引き分け 2 点、負け 1 点、棄権 0 点とする。
 - 3 不戦勝には勝ち点 3 と得点 5 点を与える。不戦敗したチームは勝ち点、得点ともに 0 点とする。
 - 4 決勝トーナメントの進出は、各ブロックの総勝ち点 1 位の4チームと総勝ち点 2 位の4チームの計8チームとする。
 - 5 ブロック戦でポイントが同数のチームが複数出た場合は下記の順で順位を決める。
 - (ア) 直接対戦における勝者チーム。
 - (イ) ブロック戦における総得失点差の大きいチーム。
 - (ウ) 主催者の定める方法による抽選。(抽選はチームの帯同コーチが行う)
 - ⑥ 各ブロックの総勝ち点 3 位のチームは順位戦に進出する。
- (2) 決勝トーナメント(例)
 - 1 優勝、準優勝、3位を決定する。
 - 2 決勝トーナメント戦で同点の場合は下記のように勝者を決定する。
 - a 決勝までは前半 3 分ー後半 3 分の延長戦を行う(前半と後半でコートチェンジを行いインターバルはなし)。延長戦でさらに同点の場合、主催者の定める方法による抽選を行う。
 - b 決勝戦では両チーム優勝とする。延長戦等は行わない。

1 チームサイド(ベンチ・グラウンド)/キックオフ/ビブスについて

- (1) チームサイド(ベンチ/コート)は、タイムスケジュールの左側チームが、観客席からコートを見て左側。
- (2) 試合開始時のフリーパスは、タイムスケジュールの左側チームから行います。
- (3) ビブスは、名簿と同じ番号のものを着用してください。

2 プレーの方法

- (1) 前半開始はハーフウェイライン中央からのフリーパスで行います。後半開始のフリーパスは前半開始のフリーパスを行わなかったチームが行います。
- (2) 試合中、二本のタグを左右の腰に一本ずつ付け、自分の足で地面に立っているプレーヤーは、競技規則に反しない限り自由にプレーすることができます。※立っていないプレーヤーはプレーに参加することができません。

3 アドバンテージ

反則が起きても、レフリーが「反則をしなかった側が有利に試合を進めている」と判断した場合、プレーを続ける場合があります。

4 得点[トライ]とその後の再開

- (1) 左右の腰に1本ずつのタグを着け、自立しているプレーヤーが相手インゴール(ゴールラインを含む)にボールを着けると1点が得られます(「トライ」といいます)。
- (2) レフリーは、防御側の反則行為がなければトライが得られたと判断した場合、トライ(「ペナルティトライ」)を与えます。
(トライをスライディングや飛び込んで防ごうとした場合等)
- (3) トライ後の再開はハーフウェイライン中央からトライをとられたチームのフリーパスで行います。
- (4) 次の場合、トライは認められません。
 - ①ボールをインゴールに着けたときに両足がインゴールに入っていなかった。
 - ②インゴール直前でタグを取られた後、ボールを相手インゴールに着けた。
ボール保持側の5mフリーパスで試合を再開します(タグの回数は継続します)。
[補足] このフリーパスはインゴールにボールを持ち込んだプレーヤーがパスをすることで始まります。
 - ③スライディングや飛び込んでインゴールに入った。
危険なプレーとみなし、防御側の5mフリーパスで試合を再開します。

5 タグ

防御側プレーヤーがボールを持っているプレーヤーのどちらかのタグを取り、それを頭上にあげて「タグ」と叫んだら、タグの成立です。

- (1) タグが起きたら、プレーヤーは次のことをしましょう。
 - 1 タグを取られたプレーヤーは直ちに前進を止め、ボールをパスします。
 - 2 タグを取ったプレーヤーはタグを相手に手渡して返します。タグを取られたプレーヤーは、すみやかに相手からタグを受け取り、タグを腰に着けます。
- (2) 防御側がタグを4回取ったら攻守交代です。4回目のタグがあった地点でのフリーパスから試合を再開します。
- (3) タッチライン上またはタッチラインの外にいるプレーヤーも相手プレーヤーのタグを取ることができます。

6 オフサイド(反則)

タグが起きると、タグを取られたプレーヤーがボールを離れた地点を基準として、ゴールラインに平行なオフサイドラインができます。

- (1) オフサイドラインの前方にいる防御側のプレーヤーは速やかにオフサイドラインの後方に下がります。
- (2) 下がりきれない防御側プレーヤーはボールを持った側のプレーヤーがパスをしたり走ったりするのを妨げないようにします。

7 ノックオン・スローフォワード(反則)

- (1) プレーヤーがボールを受け損ねたり、ボールが腕や手に当たったりして、ボールが前に進むことを「ノックオン」といいます。
- (2) プレーヤーがボールを前に投げる、あるいは前にパスすることを「スローフォワード」といいます。

8 フリーパス

「フリーパス」とはボールを持ったプレーヤーがその位置から動かずに、レフリーの合図で、自分より後方の2m以内にいるプレーヤーにパスをすることです。ボールを受け取るプレーヤーは、走り込んでパスを受け取ってははいけません。

- (1) フリーパスは前後半の開始、トライの後、6・7の反則があったとき、その他ルールで定められているときに行われます。
- (2) フリーパスのとき、防御側のプレーヤーは、すみやかにフリーパスの地点から5m下がります。ボールがパスされれば、前に出てかまいません。
- (3) インゴール及びゴールラインから5m以内のフィールドオブプレーではフリーパスは行われません。この地域でフリーパスは、反則等があった地点に近い、ゴールライン前5mの地点から行います(「5mフリーパス」といいます)。

9 タッチ

ボールを持ったプレーヤーがタッチラインを踏んだり超えたりした場合、また、投げたボールがタッチラインに触れたり超えたりした場合は「タッチ」となります。再開はタッチになった地点から相手側のフリーパスで行います。ボールはタッチラインの外にいる、またはタッチライン上のプレーヤーが投げ入れます。

10 インゴール、タッチインゴール

- (1) ボールを持ったプレーヤー及びボールが、タッチインゴール及びデッドボールラインに触れた、または超えた場合、その直前にボールを保持していなかった側の5mフリーパスで試合を再開します。
- (2) プレーヤーが自チームのインゴールにボールを着けた場合、相手側の5mフリーパスで再開します。

11 禁止事項

試合中、プレーヤーは以下の行為をしてはなりません。これらが起きた場合、その地点で相手チームにフリーパスが与えられます。

- (1) 相手選手と接触・衝突すること。接触・衝突につながる行為をすること。(接触・衝突が予想される場所に走り込む等。)
- (2) タグを取る以外の方法で相手の攻撃を止めること。
- (3) 相手をかかわす以外の方法(タグを取られないように手で押さえたり、タグを隠したり、ジャンプしたり、~~体を90度以上~~回転させたりすること)で、相手がタグを取るのを邪魔すること。
- (4) その他、タグを投げ捨てたり、相手に文句を言ったりなど、周囲の人たちを嫌な気持ちにさせる全ての行為。

12 その他

競技規則にない状況が起きた場合、レフリーは試合停止を命じ、停止直前にボールを保持していた側のフリーパスで再開します。その時、タグの回数は継続します。(バランスを崩して転倒する。誤ってボールをグラウンディングする等)

エンジョイリーグでは、習熟度の差による試合も想定されることから、すべてのプレーヤーが楽しめるように配慮してください。ただし、ノックオンやタッチを見逃す判断は好ましくありません。

この「補足」は、出場するチームの指導者、観客、レフリーが共通で理解していただきたい事柄です。プレーヤーが楽しく、安全にラグビーを楽しむ環境を作るため、以下についてご理解及び周知、ご指導いただきたくお願い申し上げます。

1 試合進行に対する悪質な妨害について

(1) レフリー(アシスタントレフリー、第3アシスタントレフリーも含む)及び競技役員はプレーヤー、帯同コーチ、観客の行為が試合進行に対しての悪質な妨害であると判断した場合、該当者に警告以上の処分を科す。悪質な妨害行為とは次の行為を指す。

- ① 時間を空費する行為
- ② 故意の反則
- ③ 相手が反則をしているように見せかける行為
- ④ 暴力行為
- ⑤ 自チームならびに相手チームプレーヤーへの暴言
- ⑥ 競技役員、レフリー・アシスタントレフリー、第3アシスタントレフリーへの暴言
- ⑦ その他、レフリー、アシスタントレフリー、第3アシスタントレフリーが試合進行の妨げになると判断した行為。
- ⑧ レフリーのコールをすること。

→罰:プレーヤーは警告以上の処分が科せられる。再開は相手側フリーパス。相手がフリーパスの権利を有している場合には再開地点を5m前進させる。帯同コーチ、観客は警告以上の処分が科される。追加処分が科せられる場合もある。

(2) 試合中に上記の行為が起きた場合、レフリーは次のように対応する。

- ① プレーヤーに対しては警告以上の処分を科し、問題行動のあった地点から相手側フリーパスで再開する。
- ② 帯同コーチ、観客の行為については、問題行為が起こった時点で警告以上の処分が科される。レフリーは必要に応じて試合を中断することができる。その場合の再開は停止を命じた時点でボールを保持していた側のフリーパスとする(タグの回数は継続)。アシスタントレフリー、第3アシスタントレフリー、競技役員が妨害行為をレフリーに報告した場合、レフリーは当該の者にハーフタイムまたは試合終了後に警告以上の処分を科す。
- ③ 警告以上の処分を受けたプレーヤー・帯同コーチ・観客は、試合終了後、直ちに大会本部に出向き、追加処分を受ける。プレーヤー、及び自チームを応援する観客が注意を受けた帯同コーチも同様である。

(3) 退場を命じられたプレーヤー、帯同コーチ、観客への罰について

- ① 試合中に退場を命じられたプレーヤーについては入替プレーヤーを認めない。プレーヤーの退場は原則として当該試合のみ有効とし、次の試合への出場は認める。
- ② 帯同コーチ及び観客の退場は終日有効である。

2 タグラグビーのプレーについて

(1) 腰に2本のタグを付け、自立しているプレーヤーは、相手プレーヤーと接触もしくは接触を誘発しないかぎり、次の行為ができる。

- ① ボールを持って自由に動くこと。
- ② 自分の真横、もしくは自分の後方にボールを投げること[パス]。
- ③ 空中にあるボールを捕球すること。
- ④ 地面にあるボールを拾うこと。
- ⑤ 保持しているボールをインゴールにつけること。
- ⑥ ボールを持っているプレーヤーのタグを取る。プレーヤーがタッチライン上、またはタッチラインの外にいても同様である。

(2) プレーヤーは次の行為をしてはならない。

- 1 2本のタグをそれぞれ左右の腰につけないでプレーする。
- 2 ボールを持っていない相手プレーヤーのタグを取る。
- 3 ボールを離れたときの位置より前方にボールを投げる[スローフォワード]。
- 4 保持している、または手に触ったボールを前方に落とす[ノックオン]。ただし保持しているボールを地面に着けただけではノックオンにはならない。
- 5 相手をかわず以外の方法でタグを取ることを妨げる。
- 6 相手のボールを奪う。
- 7 あらゆる種類のキック。
- 8 レフリーのコールをすること。

3 接触行為の禁止

全てのプレーヤーは相手選手と接触をしないように努めねばならない。一切の接触行為及び接触につながる行為をしてはならない。帯同コーチは、自チームのプレーヤーに接触行為及び接触につながる行為を行わせない義務を負う。特に、以下の行為は厳禁とする。

1 ボールを持っている時

- ・ 防御側プレーヤーに対し、体当たりをする、あるいはハンドオフ、タグを取りに来た手を払うなどの接触行為。
- ・ 防御側プレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には以下のような行為を指す。
 - 待ちかまえている防御側プレーヤーに向かって、または接近して過度の速度で直線的に走る。
 - 複数のプレーヤーが接近して待ちかまえている狭い間隙を、過度の速度で走り抜けようとする。なお、選手間の間隙が狭いか否かはレフリーが判断する。
 - 防御側プレーヤーとの接触が予見されるにもかかわらず進路、速度を変更しないで走る。
 - タグを取られることが予見されるにもかかわらず、強引に直線的に走る。
 - タグを取られた後、停止・パスをしようとせずに前進する。
 - 進行方向に背中を向けて走る、相手をかわすために半回転以上回転する。等

※北海道ブロック大会ローカルルール

2 防御するとき

- ・ タックル、あるいは体を接触させながらタグを取る、タグを取った後相手プレーヤーと接触する等の接触行為。
- ・ ボールを持っているプレーヤーとの接触を誘発する可能性のある行為。具体的には次のような行為を指す。
 - タグを取りに行く際に、自分からは遠い側のタグを取りに行く。
 - タグを取った後、ボールを持っているプレーヤーとの接触が避けられない体勢、速度でタグを取りに行く。
 - 接触が予見されるにもかかわらず、進路や速度を変えずに走り、タグを取りに行く。
 - ボールを持っているプレーヤーの後方から抱きつくようにしてタグを取る。
 - ボールを持ったプレーヤーの進行方向に足を出す。
 - ボールを持ったプレーヤーの進路を、身体や足でふさぎながらタグを取ろうとする。具体的には、ボールを持ったプレーヤーと正対した際に、接触する直前までタグを取ろうとせずに前進したり、相手を逃げられないような状態に追い込んでタグを取ったりする等の行為を指す。
 - 両手を広げて防御をする。
 - タグを取りに行く姿勢を取らずにボールを持っているプレーヤーに接近したり、ボールを持ったプレーヤーの前に立ちはだかったりする、等。

4 タグ及びタグの返し方

- (1) プレーヤーは相手のタグを取ったときには、大きな声で「タグ」とコールするとともに、取ったタグを頭上にかかげるように努めること。
- (2) タグを相手に返すときは、必ず視線を合わせて手渡しで相手に返すこと。タグを投げつける、押しつける行為はタグを返す行為として認めない。
- (3) タグを受け取ったプレーヤーは、必ずその場でタグをつけてから再びプレーに参加すること。
- (4) レフリーは、ボールを持ったプレーヤーがタグより先にパスしたと判断した場合、「パス先」または「ノー」とコールする。その場合、アシスタントレフリーはタグをカウントしない。

5 フリーパス時の注意

- (1) フリーパス時、防御側のプレーヤーは、フリーパス開始地点より速やかに5m下がらなければならない。
- (2) レフリー及びアシスタントレフリーは、防御側プレーヤーの後退及び静止を確認してから「プレイ」のコールをかけること。
- (3) 防御側プレーヤーの後退・静止が十分ではない状況で競技が始まった場合は、レフリー及びアシスタントレフリーは直ちに競技を停止し、プレーヤーに注意を与えた上で再びフリーパスを行わせる。指導にかかわらず後退・静止ができない場合、攻撃側に違反のあった地点でのフリーパスを与える。

6 その他

前後半のある試合の場合、すべての選手がボールを持ってプレーするように配慮すること。戦術的にわずかな時間、コートに立っているだけではプレーとはみなさない。ただし、エンジョイリーグはこの限りではない。

【解説】前半終了間際に選手を入れ替え、後半以降、その選手の交代が一切なかった場合など。前半で出場機会がなかった選手は、後半の始めにプレーさせるよう配慮すること。そのような配慮が認められない場合は、帯同コーチに警告以上の処分を科す。